

村高同窓会関東支部

故郷との結びつき深め

広報紙「村高」を村上図書館に寄贈

村上高等学校同窓会関東支部は、地元村上地域の人たちにも同支部の活動や会員のこ



第1号から34号までファイルされた広報紙「村高」

2千人に送付、広告媒体にも

とを知ってもらおうとこのほど、村上中央図書館に広報紙「村高」(第1号〜最新第34

号)を寄贈した。

関東支部の設立目的は、母校の発展と関東地方に住む卒業生の親睦、故郷との結びつきを深めることであり、広報紙はその目的を果たすためにあるとしている。現在の編集担当は、佐藤達生さん(30回生)工藤尚廣さん(31回生)。1990(平成2)年創刊の「村高」は、当初のタイトルが「むらこつ」(題字:中山与志夫)。初代会長は大平欣也さん(新1回生)。最新号は山本宏



村上中央図書館に郷土資料として設置されている

平(17回生)会長の下、昨年34号を発行した。

広報紙には、関東地方に住む卒業生が数多く寄稿しており、故郷を離れてからの生活や仕事の様子、望郷の念などが綴られており、掲載順、卒業回順、著者50音順、タイトル50音順のほか「青砥武平治」「げやきぶんこ」などキーワード索引も付け加えられている。郷土資料としてファイル保存し、だれでも閲覧が可能で、本部同窓会発行の「同窓のおとずれ」も並べてファイルされている。

会員約2千人に送付される広報紙は、広告媒体としての役割も果たしており、編集部では「関東方面のみならず、村上圏域からも企業宣伝だけでなく代表の近況、随想などにも活用していただきたい」としている。

同校の平山剛校長は「蓄積があって村高の歴史がわかるものが市民の目に触れるということは価値のあるもの」と話し、加藤渉館長「図書館だから集められる資料もある。まさにこの資料は、人と人を結ぶ図書館としては大変ありがたい」と話していた。